

# ほのか診察室

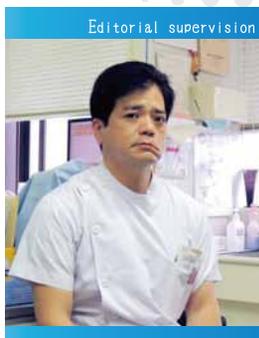
HONOKA Consultation room



シリーズ

第71話

## 中高年の男性における前立腺の病気



市民病院  
泌尿器科診療部長  
高田 三喜 監修

**日** 本では、50歳以上の男性の5人に1人は排尿症状を持っているといわれています。最も多いのは前立腺の病気が原因である場合です。前立腺は男性だけの臓器で、膀胱のすぐ下に尿道を取り囲むように位置している臓器です。骨盤の最も底にあり、正常なものはクルミ程度の大きさをしており、重さは成人で15〜20gほどで精液の一部を占める前立腺液を産生しています。今回は、

前立腺の病気の主なものである、前立腺肥大症と前立腺がんについてお話しします。

### ● 前立腺肥大症

前立腺肥大は50歳ごろからみられ、高齢になるにつれ、ほとんどの男性に起こります。50歳ごろから男性ホルモンの産生がだんだん少なくなるのに対して男性にもわずかにある女性ホルモンの量はあまり変わらず、

そのアンバランスが関係しているといわれていますが、前立腺の炎症や遺伝的体質も関係しているようです。前立腺肥大症は、排尿の時に症状が起こります。尿道が圧迫され尿道が狭くなったり、膀胱を圧迫したりします。排尿の時に尿の勢いがなくな

り、時間がかかったり、完全に尿が出きらず残尿が生じたりします。さらに症状が進むと、膀胱に尿がたまって尿が出せない状態（尿閉）となることもあります。尿閉は急に起こる場合と徐々に起こってくる場合があります。尿閉が急を起すのは、強い緊張や寒さ、お酒、刺激物を食べた、風邪薬などを飲んだといったときです。非常に苦しい思いをします。尿閉が徐々に起こってくる場合は、特に症状は変わることがないまま、膀胱の中の尿の圧力がだんだんと上がってきます。そうなると、腎臓から流れてきた尿が膀胱の中へ入れなくなり、腎臓に尿がたまって水腎症になり、最悪の場合は、腎不全や尿毒症となつて生命を脅かすこととなります。

### ● 前立腺がん

前立腺肥大症とは全く別の病気です。肥大症と異なり、前立腺の辺縁

領域から多く発生します。前立腺がんは初期にはほとんど症状がありませんが、ある程度がんが大きくなると尿道を圧迫し、前立腺肥大症と同じような排尿障害が出現し、さらに進行すると、リンパ節や骨に転移し痛みを伴うようになります。アメリカでは男性が罹るがんの第1位は前立腺がんですが、わが国でも生活の欧米化などの原因により急速な増加傾向にあります。前立腺がんは初期には自覚症状がほとんど無いため気付かないケースが多かったのですが、検査技術の向上によって人間ドックなどで早期に発見できるようになってきています。前立腺がんは早期発見できれば90%は完治可能といわれています。50歳を超えたら定期的に検査を受けることが重要です。

- ・ おしっここの勢いがいい。
  - ・ 排尿に時間がかかる。
  - ・ 夜3回以上トイレに起きる。
  - ・ 排尿後に残尿感がある。
  - ・ 力まないと排尿できない。
  - ・ トイレが近く旅行が苦痛。
- このような症状がある場合は、歳のせいだからとあきらめず早期に医療機関を受診し、検査を行うことをお勧めします。